

未来のための環境創造企業



Environmental Activity Report

# 環境活動レポート 2019

対象期間：2018.10.1～2019.9.30 発行日：2019年11月28日

# 目次 Contents

<b>1</b>		<b>組織の概要</b>	
		1.~8. 事業所名、代表者名、創立、所在地、資本金、 環境管理責任者、事業内容、事業規模	1 page
		9. 認証登録範囲	2 page
		10. 対象組織図	3 page
<b>2</b>		<b>許 認 可</b>	
		1. 収集運搬業	4 page
		1-1. 収集運搬業 積み替え保管場所一覧	5 page
		1-2. 許認可別車輛一覧	6 page
		2. 産業廃棄物処分業	7 page
		2-1. 産業廃棄物処分業保管場所一覧	8 page
		2-2. 産業廃棄物処分フロー図	9 page
		2-3. 受託した産業廃棄物及び一般廃棄物収集運搬・処理の実績（2019年度）	10 page
<b>3</b>		<b>環 境 方 針</b>	11 page
<b>4</b>		<b>環 境 活 動 計 画</b>	12 page
<b>5</b>		<b>環 境 目 標 ・ 実 績</b>	
		5-1. 2019年度目標及び取組み結果（取組み3年目）	13 page
		5-2. 年度別環境目標（中期3か年）	14 page
<b>6</b>		<b>環境活動結果とその評価、 次年度の取組み内容</b>	15 page~ 18 page
<b>7</b>		<b>環境関連法規等の順守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無</b>	
		7-1. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価結果	19 page
		7-2. 違反・訴訟の有無	
<b>8</b>		<b>代表者による見直しと評価の結果</b>	
		8-1. 代表者による全体評価と見直し	20 page~
		8-2. 本プログラムの運用を通じて（代表者としての思い）	21 page

# 1. 組織の概要 *Summary of the organization*

- 1. 事業所名 環境開発工業株式会社 (かんきょうかいはいつこうぎょう)
- 2. 代表者名 代表取締役 長谷川 徹 (はせがわ とおる)
- 3. 創 立 1976年 (昭和51年) 5月19日 【創業43年】
- 4. 所 在 地 北海道北広島市北の里41番地27
- 5. 資 本 金 4,800万円
- 6. 環境管理責任者 企画部 部長 佐々木 リサ  
 【連絡先】 TEL : 011-373-2728 FAX : 011-373-2499  
 E-Mail : lisa@kklp.co.jp
- 7. 事業内容
  - ① 廃油 (潤滑油) 収集運搬・再生重油製造販売事業
  - ② 産業廃棄物及び収集運搬・処理 (リサイクル) 事業
  - ③ 一般廃棄物及び収集運搬・処理 (リサイクル) 事業
  - ④ 特別産業廃棄物 (低濃度PCB含む) 収集運搬事業
  - ⑤ 廃OA機器、廃消火器リサイクル事業
  - ⑥ 油漏えい事故対応事業
  - ⑦ 一般貨物自動車運送事業

## 8. 事業の規模

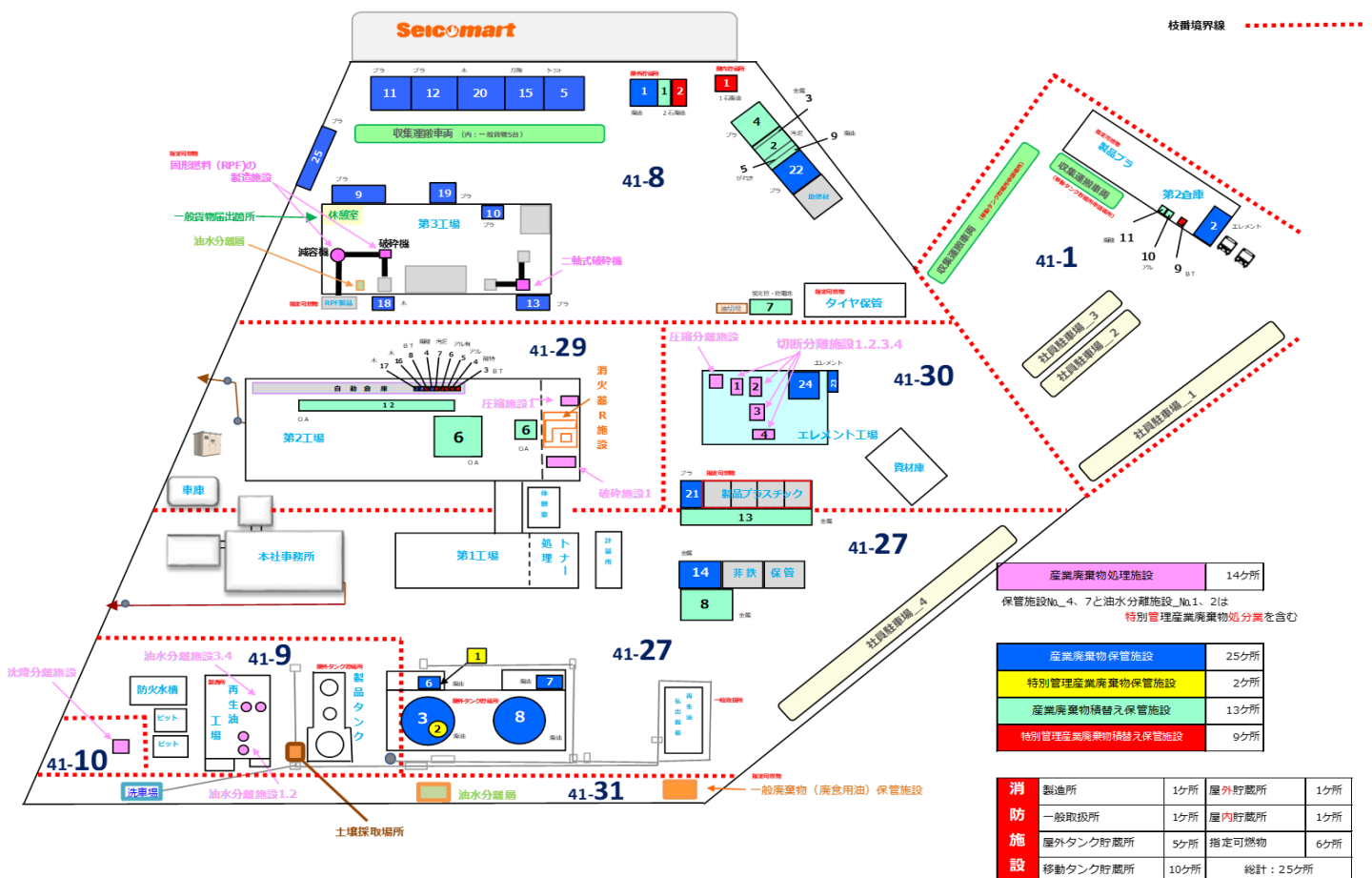
活動項目		2017年度	2018年度	2019年度
		2016.10~2017.9	2017.10~2018.9	2018.10~2019.9
産業 廃棄物	収集運搬量	7,429.7 t	7,345.4 t	7,796.2 t
	中間処理量	4,433.9 t	4,037.2 t	4,367.0 t
一般 廃棄物	収集運搬量	0.0 t	0.0 t	0.0 t
	処理量	0.6 t	0.8 t	0.7 t
売上高		1,003.4 百万円	1,083.4 百万円	1,179.3 百万円
従業員数		64.0 名	61.0 名	63.0 名
総敷地面積		21,099.6 m <sup>2</sup>	21,099.6 m <sup>2</sup>	21,099.6 m <sup>2</sup>
床面積		3,976.5 m <sup>2</sup>	3,976.5 m <sup>2</sup>	3,976.5 m <sup>2</sup>

9. 認証登録範囲 登録組織名 環境開発工業株式会社  
 認証の範囲 再生重油製造販売事業、  
 産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬業、  
 一般廃棄物・産業廃棄物の処理（リサイクル）業、  
 油漏洩事故対応事業、一般貨物自動車運送業、

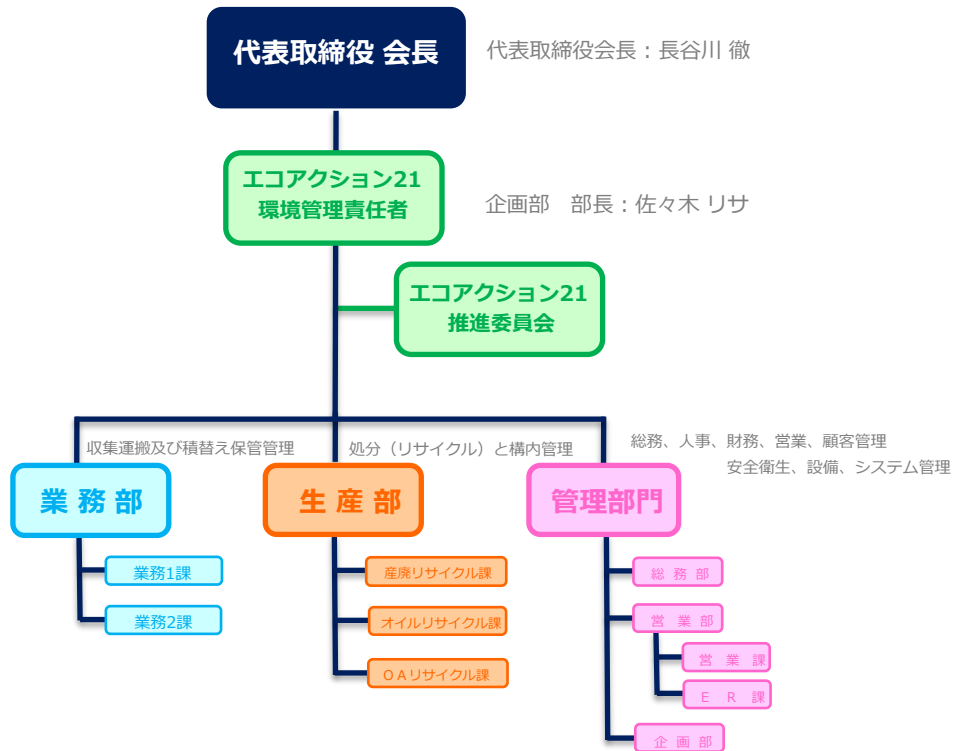
◆上空位置図



◆構内レイアウト図



10. 対象組織図



<b>代表者</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.環境方針の制定及び改定</li> <li>2.環境管理責任者の任命</li> <li>3.環境マネジメントシステム（以下、EMS)に必要な資源の決定と提供</li> <li>4.全体の評価と見直しの実施（指示）</li> </ol>
<b>環境管理責任者</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.EMSの統括</li> <li>2.エコアクション21推進委員会の委員任命</li> <li>3.環境活動計画の推進と検証</li> <li>4.組織に関わるステークホルダーへの情報発信及び回答</li> <li>5.環境上の問題点の明確化と解決策の提案</li> <li>6.全社に対するEMSの運用、進捗状況の報告</li> </ol>
<b>推進委員会</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.担当部署内のEMSの統括</li> <li>2.目標及び活動計画の立案と推進</li> <li>3.担当部署内のEMSの運用、進捗状況の報告</li> </ol>
<b>各部門</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.環境方針の理解と環境目標達成の推進</li> <li>2.環境活動への積極的参加</li> <li>3.担当業務で生じた環境活動に関する事項の報告</li> </ol>


## 2. 許認可 License

### 1. 収集運搬業

#### 【産業廃棄物収集運搬業】

- 許可番号 北海道 第00110004747号 
- 許可の年月日 2014年（平成26年）6月29日
- 許可の年月日有効年月日 2021年（令和3年）6月28日

#### 【特別管理産業廃棄物収集運搬業】

- 許可番号 北海道 第00160004747号 
- 許可の年月日 2015年（平成27年）7月29日
- 許可の年月日有効年月日 2020年（令和2年）6月28日

許可品目	産業廃棄物区分							
	産業廃棄物			特別管理産業廃棄物				
	許可	積保	石綿含有	特管	積保	有害	PCB	石綿
燃え殻	●	-	-	-	-	-	-	-
汚泥	●	●	-	●	●	● 22種類	-	-
廃油	●	●	-	●	●	● 11種類	◎	-
廃酸	●	●	-	●	●	● 22種類	-	-
廃アルカリ	●	●	-	●	●	● 22種類	-	-
廃プラスチック類	●	●	◎	-	-	-	◎	-
紙くず	●	-	-	-	-	-	-	-
木くず	●	-	-	-	-	-	-	-
繊維くず	●	-	-	-	-	-	-	-
動物性残さ	●	-	-	-	-	-	-	-
ゴムくず	●	-	-	-	-	-	-	-
金属くず	●	●	-	-	-	-	◎	-
ガラスくず、 コンクリートくず及び陶磁器くず	●	●	◎	-	-	-	-	-
鋳さい	●	-	-	-	-	-	-	-
がれき屑	●	●	◎	-	-	-	-	-
動物のふん尿	●	-	-	-	-	-	-	-
動物の死体	●	-	-	-	-	-	-	-
ばいじん	●	-	-	-	-	-	-	-
(廃石綿等)	-	-	-	-	-	-	-	●

◎ → 低濃度ポリ塩化ビフェニル等、汚染物に限る

◎ → 石綿含有産業廃棄物を含むもの

#### 【一般廃棄物収集運搬業】

- 許可番号 北広島市 北広環境指令第180号
- 許可の年月日 2017年（平成29年）12月8日
- 許可の年月日有効年月日 2019年（令和元年）12月7日
- 許可品目 家庭用廃パソコン、廃食用油、廃潤滑油

### 1-1. 収集運搬業 積み替え保管場所一覧

区分	No.	保管場所内容	面積 単位：㎡	保管上限 単位：㎡	高さ 単位：m
産業廃棄物収集運搬業	保管場所1	廃油	10.00	4.80	容器保管
	保管場所2	汚泥	47.00	40.40	容器保管
	保管場所3	金属くず	10.00	6.00	容器保管
	保管場所4	廃プラスチック類	100.00	83.30	3.00
	保管場所5	がれき類	20.00	3.20	容器保管
	保管場所6	廃プラスチック類、金属くず、 ガラスくず、コンクリートくず及び 陶磁器くず（廃OA機器、廃遊技機に限る）	86.00	126.00	屋内保管
	保管場所7	金属くず、汚泥、 ガラスくず、コンクリートくず及び 陶磁器くず、廃プラスチック類 （水銀使用製品産業廃棄物であるものを含む）	18.00	9.30	屋内保管
	保管場所8	金属くず	48.58	75.78	2.90
	保管場所9	廃油	20.00	10.00	容器保管
	保管場所10	廃アルカリ	1.80	1.00	容器保管
	保管場所11	廃酸	1.80	1.00	容器保管
	保管場所12	廃プラスチック類、金属くず、 ガラスくず、コンクリートくず及び 陶磁器くず（廃OA機器、廃遊技機に限る）	75.00	124.00	屋内保管
	保管場所13	金属くず	40.00	39.00	容器保管
特別 収集運搬業 産業廃棄物	保管場所1	廃油（揮発油類、灯油類及び軽油類）	5.96	1.931	容器保管
	保管場所2	廃油（揮発油類、灯油類及び軽油類）	10.00	4.80	容器保管
	保管場所3	廃酸（pH2.0以下のもの（廃バッテリー））	1.21	0.20	屋内保管
	保管場所4	廃酸（特定有害産業廃棄物）	1.21	0.60	屋内保管
	保管場所5	廃アルカリ（pH12.5以上のもの）	1.21	0.60	屋内保管
	保管場所6	廃アルカリ（特定有害産業廃棄物）	1.21	0.60	屋内保管
	保管場所7	汚泥（特定有害産業廃棄物）	1.21	0.60	屋内保管
	保管場所8	廃酸（pH2.0以下のもの（廃バッテリー））	1.21	0.20	屋内保管
	保管場所9	廃酸（pH2.0以下のもの（廃バッテリー））	4.84	1.60	屋内保管

1-2. 許認可別車両一覧

車両形状	台数	最大積載重量 【単位：t】		許認可別収集運搬車両台数			
				普通	特管	PCB	一般貨物
キャブオーバー	10 台	4.70 ~	11.70	10 台	10 台	10 台	3 台
タンク車	11 台	3.00 ~	12.32	11 台	4 台	4 台	0 台
塵芥車	1 台	2.40 ~	2.40	1 台	0 台	0 台	0 台
バン	9 台	0.40 ~	4.90	9 台	9 台	9 台	2 台
ステーションワゴン	2 台	0.22 ~	0.22	2 台	2 台	2 台	0 台
TOTAL	33 台	-		33 台	25 台	25 台	5 台

※産業廃棄物収集運搬業の認可を受けていない【営業・管理車両10台】は除く

環境達成区分	キャブ オーバー	タンク車	塵芥車	バン	ステーショ ンワゴン	箱型 (乗用車)	TOTAL
平成22年度燃費基準10%向上達成車	台	台	台	台	1 台	台	1 台
平成22年度燃費基準15%向上達成車	台	台	台	台	台	1 台	1 台
平成22年度燃費基準25%向上達成車	台	台	台	1 台	台	1 台	2 台
平成27年度燃費基準達成車	3 台	4 台	1 台	3 台	台	1 台	12 台
平成27年度燃費基準5%向上達成車	1 台	台	台	台	台	台	1 台
平成27年度燃費基準15%向上達成車	台	台	台	1 台	台	台	1 台
平成27年度燃費基準20%向上達成車	台	台	台	台	1 台	台	1 台
平成32年度燃費基準達成車	台	台	台	台	台	1 台	1 台
平成32年度燃費基準10%向上達成車	台	台	台	台	台	1 台	1 台
平成32年度燃費基準20%向上達成車	台	台	台	台	台	1 台	1 台
プラグインハイブリット車	台	台	台	台	台	1 台	1 台
<b>TOTAL</b>	<b>4 台</b>	<b>4 台</b>	<b>1 台</b>	<b>5 台</b>	<b>2 台</b>	<b>7 台</b>	<b>23 台</b>

全社所有車両43車中 低公害車導入率53.5% (営業車・管理車両含む)





## 2. 廃棄物処分量

### 【産業廃棄物処分量】

- 許可番号 北海道 第00120004747号
- 許可の年月日 2016年（平成28年）9月7日
- 許可の年月日有効年月日 2021年（令和3年）6月28日



### 【特別管理産業廃棄物処分量】

- 許可番号 北海道 第00170004747号
- 許可の年月日 2013年（平成25年）11月27日
- 許可の年月日有効年月日 2020年（令和2年）10月24日



区分	No.	処理施設名	処理能力	
			1日あたり	1時間あたり
産業 廃棄物 処分量	1	汚泥、廃油の油水分離施設1	24.000 m <sup>3</sup> /日 (8h)	3.000 m <sup>3</sup> /h
	2	汚泥、廃油の油水分離施設2	24.000 m <sup>3</sup> /日 (8h)	3.000 m <sup>3</sup> /h
	3	汚泥、廃油の油水分離施設3	24.000 m <sup>3</sup> /日 (8h)	3.000 m <sup>3</sup> /h
	4	汚泥、廃油の油水分離施設4	24.000 m <sup>3</sup> /日 (8h)	3.000 m <sup>3</sup> /h
	5	汚泥、廃油、廃アルカリの沈降施設	9.984 m <sup>3</sup> /日 (8h)	1.248 m <sup>3</sup> /h
	6	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る)の切断分離施設1	2.080 t/日 (16h)	0.130 t/h
	7	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る)の切断分離施設2	2.080 t/日 (16h)	0.130 t/h
	8	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る)の切断分離施設3	2.080 t/日 (16h)	0.130 t/h
	9	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る)の切断分離施設4	2.080 t/日 (16h)	0.130 t/h
	10	廃プラスチック類の圧縮施設1	4.808 t/日 (8h)	0.601 t/h
	11	固形燃料 (RPF)の製造施設	4.480 t/日 (8h)	0.560 t/h
	12	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、 コンクリートくず及び陶磁器くずの破碎施設1	ﾌﾞ 2.160 t/日 (8h) 金 3.760 t/日 (8h) ｶﾞ 4.000 t/日 (8h)	0.270 t/h 0.470 t/h 0.500 t/h
	13	廃プラスチック類、金属くず、破碎施設	ﾌﾞ 4.720 t/日 (8h) 金 3.520 t/日 (8h)	0.590 t/h 0.440 t/h
	14	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る)の圧縮分離施設	4.320 t/日 (16h)	0.270 t/h
特 管 業 処	1	汚泥、廃油の油水分離施設1	24.00 m <sup>3</sup> /日 (8h)	3.000 m <sup>3</sup> /h
	2	汚泥、廃油の油水分離施設2	24.00 m <sup>3</sup> /日 (8h)	3.000 m <sup>3</sup> /h

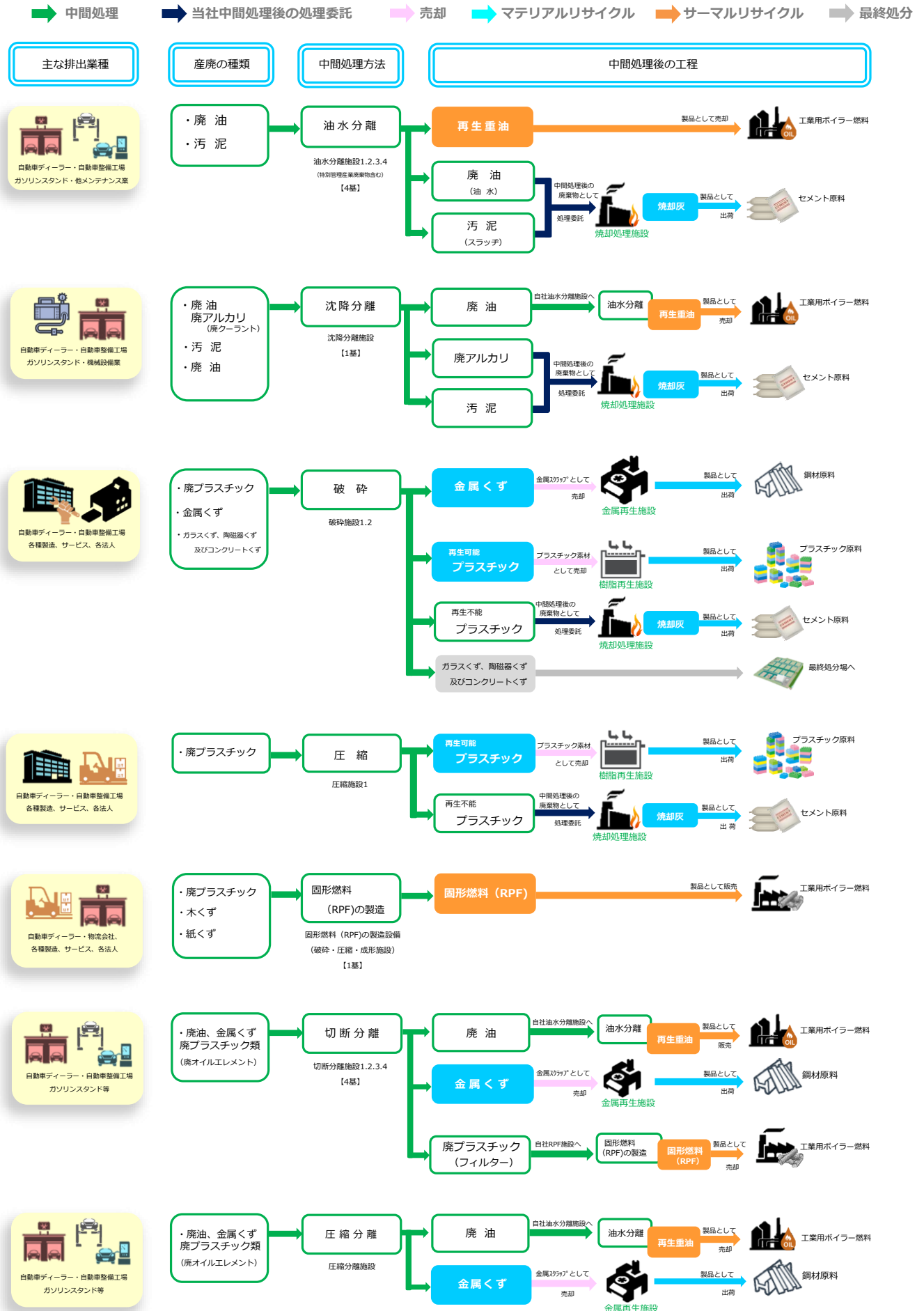
### 【一般廃棄物処分量】

- 許可番号 北広島市 北広環境指令第181号
- 許可の年月日 2017年 12月 8日
- 許可の年月日有効年月日 2019年 12月 7日
- 許可品目 家庭用廃パソコン、廃食用油、廃潤滑油

**2-1. 産業廃棄物処分業保管場所一覧**

区分	No.	保管場所内容	面積 単位：㎡	保管上限 単位：㎡	高さ 単位：m
産業 廃棄物 処分業	保管場所1	廃油	20.00	9.60	容器保管
	保管場所2	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る。)	45.00	56.00	容器保管
	保管場所3	廃油	40.30	200.00	屋外タンク
	保管場所4	汚泥	1.21	0.60	屋内保管
	保管場所5	廃油、廃アルカリ (廃クーラントに限る)	31.60	33.64	容器保管
	保管場所6	廃油	4.60	7.00	屋外タンク
	保管場所7	廃油	4.60	9.00	屋外タンク
	保管場所8	廃油	40.30	200.00	屋外タンク
	保管場所9	廃プラスチック類	40.00	56.00	容器保管
	保管場所10	廃プラスチック類	9.00	10.80	屋内保管
	保管場所11	廃プラスチック類	24.94	36.12	容器保管
	保管場所12	廃プラスチック類	39.44	63.24	容器保管
	保管場所13	廃プラスチック類	23.04	36.24	容器保管
	保管場所14	金属くず	33.50	41.87	容器保管
	保管場所15	ガラスくず、コンクリートくず及び 陶磁器くず	25.52	36.08	容器保管
	保管場所16	紙くず	1.21	1.00	屋内保管
	保管場所17	紙くず	1.21	1.00	屋内保管
	保管場所18	木くず	24.00	12.73	0.86
	保管場所19	廃プラスチック類	17.00	18.12	容器保管
	保管場所20	木くず	30.00	30.00	2.50
	保管場所21	廃プラスチック類	15.00	18.75	2.50
	保管場所22	廃プラスチック類	100.00	162.48	容器保管
	保管場所23	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る。)	10.00	4.80	容器保管
	保管場所24	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る。)	36.00	30.00	容器保管
	保管場所25	廃プラスチック類	45.00	56.00	容器保管
特別管理 産業廃棄物 処分業	保管場所1	廃油 (揮発油類、灯油類及び軽油類)	4.60	7.00	容器保管
	保管場所2	廃油 (揮発油類、灯油類及び軽油類)	40.30	200.00	屋外タンク

2-2. 産業廃棄物処分フロー図



## 2-3. 受託した産業廃棄物及び一般廃棄物収集運搬・処理の実績 (2019年度)

【単位：t】

処理方法等		廃棄物等種類	処分方法等	2019年度実績	カテゴリ別TOTAL
収集運搬	産業廃棄物	汚泥		272.3	7,483.6
		廃油		2,136.0	
		廃酸		4.2	
		廃アルカリ		24.8	
		廃プラスチック類		1,511.2	
		木くず		60.5	
		紙くず		0.3	
		金属くず		2,104.9	
		ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず		36.8	
		鉱さい		3.5	
		がれき類		19.4	
		【混合物】廃油・金属くず		0.0	
		【混合物】汚泥・金属くず		3.6	
		【混合物】廃プラスチック・金属くず		165.2	
	【混合物】廃プラスチック・金属くず・ガラスくず		204.4		
	【混合物】廃油・廃アルカリ		343.2		
	【混合物】金属くず・廃油・廃プラスチック		593.3		
	特別管理産業廃棄物	廃油		288.3	312.6
		廃酸 (pH2.0以下)		0.1	
		廃アルカリ (pH12.5以上)		1.0	
		汚泥 (有害)		0.0	
		廃油 (有害)		0.2	
		廃酸 (有害)		0.0	
		廃アルカリ (有害)		0.0	
		強酸		0.0	
		廃ポリ塩化ビフェニル等 (PCB)		2.8	
		【混合物】強酸・金属くず・廃プラスチック		20.2	
一般	OA機器、廃油、廃食油		0.0	0.0	
収集運搬量合計				7,796.2	7,796.2
中間処理	産業廃棄物	廃油	油水分離	1,961.6	4,367.0
			沈降分離	125.3	
		廃油・廃アルカリ	沈降分離	368.0	
			圧縮	69.3	
		廃プラスチック類	固形燃料 (RPF) の製造	233.2	
			破砕	813.6	
		金属くず	破砕	52.3	
		ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	破砕	39.5	
		木くず	固形燃料 (RPF) の製造	68.1	
		紙くず	固形燃料 (RPF) の製造	0.3	
	金属くず・廃油・廃プラスチック	切断分離	476.6		
		圧縮分離	159.2		
	一般	OA機器、廃油、廃食油	-	0.7	0.7
	うち再資源化等	廃油	再生重油製造	1,940.9	3,535.8
		廃プラスチック類	固形燃料 (RPF) の製造	838.3	
		木くず	固形燃料 (RPF) の製造	68.1	
		紙くず	固形燃料 (RPF) の製造	0.3	
金属くず		製鋼原料	52.3		
金属くず・廃油・廃プラスチック		製鋼原料	429.2		
	再生重油製造	159.0			
固形燃料 (RPF) の製造	47.7				
中間処理量合計				4,367.7	4,367.7
最終処分量	該当なし	-	0.0	0.0	
中間処理後の産業廃棄物	処最終	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	安定型埋立	52.1	75.8
		混合物 (廃プラ・金属・紙・木屑)	管理型埋立	23.7	
	中間処理	廃油	焼却	0.7	165.0
		汚泥	脱水	43.5	
			中和	15.7	
		廃プラスチック類	焼却	105.1	
	再資源化等	廃油	助燃材	195.1	700.8
		金属くず	製鋼原料	54.2	
		廃プラスチック類	助燃材	235.4	
		がれき屑	セメント原料	4.4	
廃油・廃アルカリ	燃焼制御材	211.7			
中間処理後の処分量合計				941.6	941.6

## 3. 環境方針 *Environment Policy*

### 基本理念

#### *Basic Principles*

環境開発工業株式会社は廃棄物処理、リサイクルを主な事業としており、事業そのものの中で不適切な遂行は、直接重大な環境破壊や汚染を招く事を強く認識・自覚し、当社の最大能力を尽くして適正処理・環境負荷軽減を実行し、『より良い環境を次世代に継いで行く』事をモットーに社会貢献してまいります。

### 行動指針

#### *Guidelines for action*

- 1 環境理念を実現するため環境目標を設定し、環境負荷低減活動を実施します。
- 2 環境関連法及び当社が同意するその他の要求事項を確実に遵守します。
- 3 廃棄物排出量の抑制・埋立・焼却処分の最小化、さらに廃棄物のリサイクル化、再資源化を図り省資源・省エネルギー・CO<sub>2</sub>削減、環境負荷の最小化に努めます。
- 4 環境方針、環境目的、環境目標は、必要に応じて改訂します。
- 5 環境方針は文書化し、全従業員に周知するとともに、関係お取引先を含め一般に公開します。

2019年6月6日 制定

環境開発工業株式会社

代表取締役会長

長谷川 徹



## 4. 環境活動計画 *Environmental activity plan*

### 1 二酸化炭素排出量の削減

- ◆産業廃棄物収集運搬車輛におけるエコドライブの促進と燃費向上に努める
- ◆製造・処理施設及び事務所等構内各所における電気及び化石燃料使用の低減

### 2 省資源の促進

- ◆水を扱うすべての構内において節水を意識し、使用量を削減する

### 3 資源循環の向上と埋立量削減促進

- ◆再生資源化品の生産量向上に努め、循環型社会形成に貢献する
  - ①廃油の再生重油化
  - ②廃プラスチック類のRPF（固形燃料）化
  - ③鉄、非鉄スクラップの素材化
- ◆廃プラスチック類の分別及び選別の徹底により、埋立廃棄物の削減を図る

### 4 環境配慮製品の利用推進と導入

- ◆地球環境に配慮したバイオ製剤の利用
- ◆環境負荷低減に配慮したグリーン購入品の促進
- ◆車両入替時による大気汚染物質の排出が少ない低公害車導入の配慮

### 5 次世代に繋がる環境貢献活動の推進

- ◆「森とアースへのエコプロジェクト」の賛同による森林維持及び保全活動の支援
- ◆構内から発生する油脂の除去及び構外への漏洩防止
- ◆近隣地域及び社会への貢献可能な寄付活動

## 5. 環境目標・実績 Environment target & Performance

### 5-1 2019年度目標及び取り組み結果

環境目標項目		単位	主幹部門	前年度実績 2017年10月～ 2018年9月	今年度目標値 2019年度	達成手段	今年度実績 2018年10月～ 2019年9月	目標比	評価	
二酸化炭素排出量削減	ガソリン	ℓ/年	管理部門	21,788.0	21,570.0	アイドリング時間の削減	19,891.1	-1,678.9	◎	
	軽油	ℓ/年	業務部	230,021.0	229,331.0	急加速・急ブレーキの抑制	211,745.4	-17,585.6	◎	
	灯油	ℓ/年	生産部 管理部門	22,191.0	22,191.0	ウォームアップの推進	21,909.6	-281.4	◎	
	重油	ℓ/年	オイルリサイクル課	78,000.0	78,000.0	ボイラの仕様変更により、重油に切替えた為、 今期要観察	82,000.0	4,000.0	×	
	LPG	kg/年	オイルリサイクル課	80.0	80.0	ボイラ使用時の着火源の為、現状維持	40.0	-40.0	◎	
	電力使用量	工場・施設	kwh/年	生産部 管理部門	387,936.0	384,057.0	第3工場新設に伴い今期要観察	391,222.0	7,165.0	×
	二酸化炭素排出量		kg-CO <sub>2</sub> /年	-	1,183,372.0	1,178,433.0	*****	1,143,123.0	-35,310.0	◎
収集運搬車両 燃費向上		km/年	業務部	3.4	3.8	急加速・急ブレーキの抑制	3.7	-0.1	△	
省資源	水の使用量削減		生産部 管理部門	1,784.0	1,784.0	RPF燃料製造時の冷却を スプリンクラー仕様に変更	1,970.0	186.0	×	
資源循環・埋立削減	再生資源製造 出荷量	再生重油	オイルリサイクル課	9,955.0	9,311.0	廃油収集量前年同等であるため、要観察	10,119.0	808.0	◎	
		RPF(固形燃料)	産廃リサイクル課	658.7	650.0	原料分別強化	713.0	63.0	◎	
		非鉄・金属	OAリサイクル課	3,169.0	3,480.0	分別エリア変更に伴い、手法向上	2,881.0	-599.0	×	
	廃プラスチック類の 中間処理後の埋立量削減		t/年	産廃リサイクル課	41.8	24.0	分別強化により、RPF原料ヘシフト	23.7	-0.3	◎
環境配慮製品の購入	環境配慮製品促進	バイオ製剤販売促進	本/年	ER課	438.0	100.0	原因者に対する浄化処理方法へ 提案、促進	503.0	403.0	◎
	グリーン購入 (環境配慮製品含む)		種/年	総務部	11.0	10.0	購入時に優先検討	18.0	8.0	◎
	低公害車導入	所有車輸入替時による導入促進	件/年	業務部 管理部門	3.0	1.0	車両入替時に検討	2.0	1.0	◎
環境・社会貢献活動	森林維持 保全活動	森とアースへのエコ プロジェクト支援	回/年	企画部	1.0	1.0	オイルリサイクル組合との共同参加支援	1.0	0.0	◎
	環境美化維持	構内外の清掃活動	回/年	企画部	6.0	8.0	2か月に1度全社員実施	27.0	19.0	◎
	取引顧客のリサイクル 活動の支援促進	取引顧客に対するリサイ クルデータ配布	件/年	営業部	42.0	50.0	分別指導の促進による リサイクル値支援維持	目標変更		

【評価記号】 ○ ⇒ 目標達成及び次年度継続 ▲ ⇒ 目標未達成であるが、要観察として目標値維持 × ⇒ 目標値変更

5-2 年度別環境目標（中期3か年）

環境目標項目	単位	主幹部門	初年度実績 2017年10月~ 2018年9月	中期目標値				
				2018年度	2019年度 (今年度)	2020年度		
二酸化炭素排出量削減	ガソリン	ℓ/年	管理部門	21,788.0	21,570.0	<del>23,160.0</del> 是正值 21,570.0	<del>22,692.0</del> 是正值 21,352.0	
	軽油	ℓ/年	業務部	230,021.0	229,331.0	<del>217,584.0</del> 是正值 229,331.0	<del>213,228.0</del> 是正值 228,871.0	
	灯油	ℓ/年	生産部 管理部門	22,191.0	22,191.0	<del>16,824.0</del> 是正值 22,191.0	<del>16,488.0</del> 是正值 21,969.0	
	重油	ℓ/年	オイルリサイクル課	78,000.0	78,000.0	<del>64,680.0</del> 是正值 78,000.0	<del>63,384.0</del> 是正值 78,000.0	
	LPG	kg/年	オイルリサイクル課	80.0	80.0	<del>60.0</del> 是正值 80.0	<del>60.0</del> 是正值 80.0	
電力使用量	工場・施設	kwh/年	生産部 管理部門	387,936.0	384,057.0	<del>339,576.0</del> 是正值 384,057.0	<del>332,784.0</del> 是正值 380,177.0	
二酸化炭素排出量		kg-CO <sub>2</sub> /年	*****	1,183,437.0	1,178,433.0	<del>1,088,280.0</del> 是正值 1,178,433.0	<del>1,066,512.0</del> 是正值 1,173,543.0	
収集運搬車輛 燃費向上		km/年	業務部	3.4	3.8	3.8	3.9	
省資源	水の使用量削減		m/年	生産部 管理部門	1,784.0	1,010.0	<del>990.0</del> 是正值 1,784.0	<del>970.0</del> 是正值 1,766.0
資源循環・埋立削減	再生資源製造 出荷量	再生重油	kℓ/年	オイルリサイクル課	9,955.0	9,311.0	<del>9,000.0</del> 是正值 9,311.0	<del>9,000.0</del> 是正值 9,311.0
		RPF(固形燃料)	t/年	産廃リサイクル課 OAリサイクル課	658.7	650.0	650.0	680.0
		非鉄・金属	t/年		3,169.0	3,480.0	3,480.0	3,600.0
廃プラスチック類の 中間処理後の埋立削減		t/年	産廃リサイクル課	41.8	24.0	24.0	12.0	
環境配慮製品の購入	環境配慮製品促進	バイオ製剤販売促進	本/年	ER課	438.0	100.0	100.0	100.0
	グリーン購入 (環境配慮製品含む)		種/年	総務部	11.0	10.0	10.0	10.0
	低公害車導入	所有車輸入替時による導入促進	件/年	業務部 管理部門	3.0	1.0	1.0	1.0
環境・社会貢献活動	森林維持 保全活動	森とアースへの エコプロジェクト支援	回/年	企画部	1.0	1.0	1.0	1.0
	環境美化維持	構内外の清掃活動	回/年	企画部	6.0	8.0	8.0	10.0
	取引顧客のリサイクル 活動の支援促進	取引顧客に対するリサイ クルデータ配布数	件/年	営業部	配布飽和状態につき、近隣地域及び社会貢献としての寄付活動に変更 今期：5件実施			

- 電力算出係数 北海道電力2015年度0.676t-CO<sub>2</sub>/Kwhを使用
- 中期目標値表記の是正值については「2018年度代表者による全体見直し時に再設定した数値である



## 6. 環境活動結果とその評価、次年度の取組み内容

Results of environmental activities and their evaluation, efforts in the next fiscal year

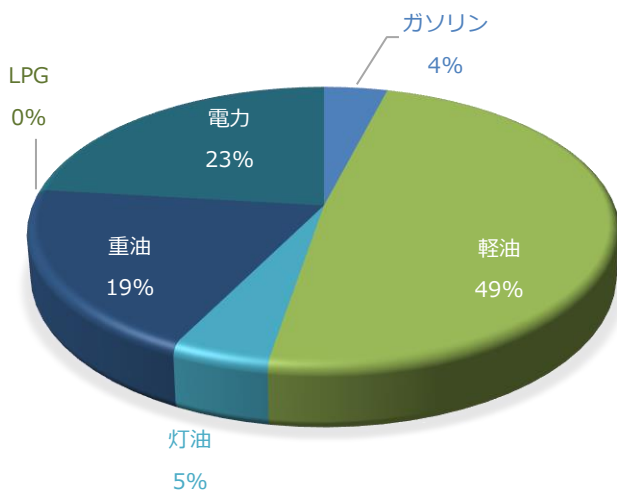
本年で運用3年目に入りましたが、処理設備の入替え、安全対策を行ったことにより電力、重油の使用量が目標未達成に終わった。

しかし、車輛で使用するガソリン、軽油については低燃費運転促進や回収周期を見直した結果、使用量の大幅削減となった。（但し、軽油については回収車両が長期修理中であることも一因である。）

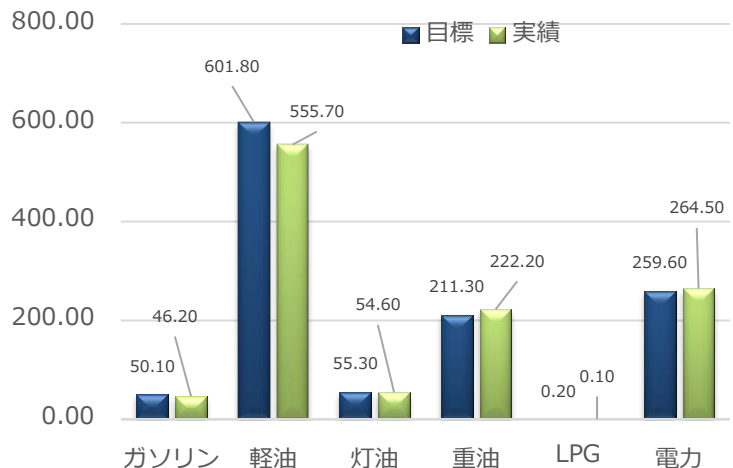
### 1. 二酸化炭素排出量削減

2019年度	エネルギー使用量 (t/年)			CO <sub>2</sub> 発生量 (t-CO <sub>2</sub> /年)		
	目標	実績	差異	目標	実績	差異
ガソリン	21.60	19.90	-1.70	50.10	46.20	-3.90
軽油	230.00	211.70	-18.30	601.80	555.70	-46.10
灯油	22.20	21.90	-0.30	55.30	54.60	-0.70
重油	78.00	82.00	4.00	211.30	222.20	10.90
LPG	0.08	0.04	-0.04	0.20	0.10	-0.10
電力	384.00	391.20	7.20	259.60	264.50	4.90
TOTAL	735.88	726.74	-9.14	1,178.30	1,143.30	-35.00

【① 使用エネルギー別 CO<sub>2</sub>排出量構成率】



【② 使用エネルギー別 CO<sub>2</sub>排出量目標対比】



前年は車輛に関わる燃料比率が大半を占めていたが、低燃費走行の促進並びに回収頻度や収集運搬ルートの見直しを継続していることから、使用エネルギー別では軽油からのCO<sub>2</sub>を大きく削減すること出来た。

しかし、本年3月より二軸破砕機の導入を行ったことによる電力使用量増やNox対策によりボイラー燃料をA重油に変更したことによって使用量増=CO<sub>2</sub>排出量増となってしまった。

前年は、「5%削減」を目標値にしていたが、実質3%弱の削減であったため改善したとは言い難い結果である。

来年以降は、設備の稼働時間や手法を中心に、少しでも削減できるよう改善する努力を行っていく。

## 2. 省資源の促進・節水

プラスチック受入量増加に伴い、RPF製造量も増加。これにより、RPF製品を出荷までの堆積時間が長くなり、「天かす火災」同様の現象が生じるであろうと判断。

外気温が上昇する5月以降、製品を冷却するため常時散水を実施したことで目標値よりも186m<sup>3</sup>/年水量が上昇した。

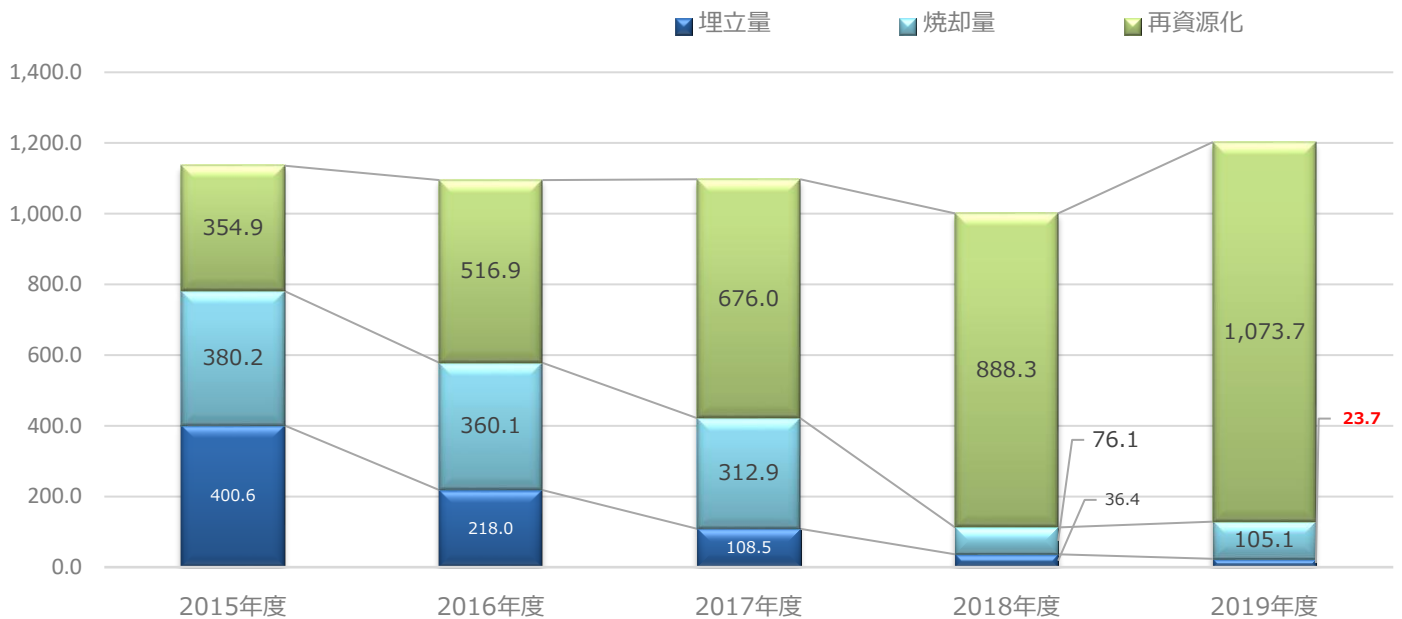
次年度は、冷却する水量を循環させる機材や保管方法を見直し、使用量の削減にむけて努力する。

## 3. 資源循環・埋立削減

本年3月より「二軸式破砕機」を導入。これにより、一軸式では破砕が難しかった軟質系、金属付着プラスチックが効率的に破砕可能となり、作業効率上やむを得ず埋立や焼却処理していた原料が、再資源化可能となった。

特に、埋立率は全体量の2.1%にまで引き下げることが出来ました。

### 【③ 事業年度別廃プラスチック類処理方法別実績】



## 4. 環境配慮・貢献活動

今期も環境配慮製品を取り込み目標値を達成した。特に大きく貢献したのは「バイオ製剤販売促進」であり、前年比約115%という結果となった。これは当社の新たな事業であるER課の「油漏洩事故処理」の営業努力が実り、受注量が拡大した。

この事業は、漏洩した油脂の種類、漏洩範囲や状況に合わせて臨機応変に対応し、いかに汚染した範囲を元の状態に戻すかが求められる。当社では環境に悪影響を及ぼさない分解除去が有効な「バイオレメディエーション（微生物による浄化）」を採用、今後も環境汚染防止に努めてまいります。

油漏洩事故処理事業のロゴ



PR活動用チラシ

収集運搬車両にも宣伝ステッカーを貼付け



油とりクリーナー  
(天然微生物含有油除去剤)



オイルスポンジ  
(生分解性粉末油吸着)

## 5. 環境・社会貢献活動

### ■ 構内環境美化と維持

構内に落ちているゴミを拾うという行動は社員全員に定着しているが、様々な油脂を扱う業務を行ううえで、その取扱いや汚れを清掃する力が不足していました。特に当社は「油漏洩事故処理」の受託を積極的に実施しているにも関わらず、自社構内が油汚れやシミのメンテナンスを怠っているのは論外ということから、油を取り扱う床面をはじめ、油水分離槽、雨水、浸透枳の洗浄、吸着マットの交換、仮設分離槽を設置し、ノルマルヘキサン値の監視などを開始しました。

来春には油分の発生リスクが高い作業範囲にグレーチングや油水分離槽を増設し、日々汚染・漏洩ZEROを徹底します。

最終排水場所に吸着マットを設置し、日々監視



構内20か所以上ある各枳に吸着マットを配置



仮設分離槽を設置し、浄化後排水



### ■ 構内緑化の促進

今期も各所に花壇を設置し、無機質な構内に彩りを施しました。特に平成9年に旧事務所から本事務所に先代の四郎会長が移植した「牡丹」は、20年以上が経過しても毎年大輪の花を咲かせています。この花が咲き始めると北海道にも夏が到来します。来年も色とりどりの花を咲かせ、来社されるお客様をはじめ、業務を遂行する社員にも心和む構内であるよう、緑化活動に力を注ぎたいと思います。



先代の四郎会長が植えた「牡丹」

毎年5月下旬に開花

その他にコスモス、ペコニア、ミリオンベル等の各花々を植えました。



↑ ビオラ 北広島シルバー人材センターの方が生育した苗

### ■ 防災対策推進のお手伝いとして北広島市へ寄付

2014年から始めている北広島市への寄付活動。今期も前期同様、良好な業績を収めることが出来ました。これもお客様からのご愛顧をはじめ、この北広島市で事業が継続出来ているからこそ、当社の今があります。昨年は大曲地区も被災され、現在も復旧工事が進められています。当社でも何かお役に立てればとの思いで、防災関連の整備費として150万円ほど寄付をさせていただきました。今後も継続して地域に貢献できるよう、事業継続してまいります。



防災関連事業の整備費として  
寄付したことによる感謝状

上野北広島市長より感謝状の授与  
2019年10月11日  
北広島市役所 市長室にて



## ■ 森とアースへのecoプロジェクトへの参加と「Jクレジットの還元」

2014年度より「森とアースへのエコプロジェクト」が開始され、今年度で5回目の参加となりました。

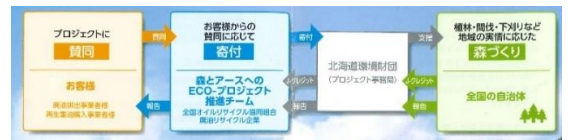
### 低炭素杯2019にて奨励賞を受賞

低炭素社会の構築を目指した地球温暖化防止に関する取り組みを表彰する「低炭素杯」において、本プロジェクトが優秀な活動内容であるとして「奨励賞」を受賞しました。



本プロジェクトは「全国オイルリサイクル協同組合」の加盟企業が参加。「廃油リサイクルから森づくり」をテーマに日本各地の森林保全活動の支援を通じたCO<sub>2</sub>削減や生物多様性の保全活動に微力ながら貢献しております。

尚、支援した証として50 t-CO<sub>2</sub>/回のクレジットを取得。今回当社で得たクレジットは、本プロジェクトに賛同下さったお客様に還元し、お客様の開催するイベントで排出するCO<sub>2</sub>をオフセットしていただくこととしました。このスキームはこれからの新たな環境活動として、排出者の方々に広がっていくことを希望しています。



## ■ 「ほっかいどう大運動会」に参加し、被災地の復興を支援



「スポーツの力で被災地を応援しよう!」と題した「ほっかいどう大運動会」に13名の社員が出場しました。今年の開催は、昨年9月に発生した厚真町、鶴川町を中心とした大規模地震の復興支援とし、参加料は義援金として全額寄付されました。間接的な支援ではありますが、少しでも多くの方々が災害前の生活に戻れるよう、微力ながら今後も支援してまいります。



スタジアムラン・リレ参加278チーム中149位



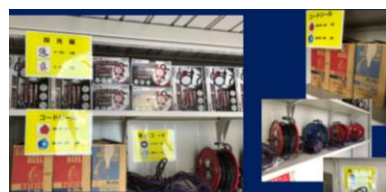
あつま国際雪上3本綱引き(屋内特別ルール)  
参加101チーム中26位

## ■ BCP対策強化として防災庫を設置



事務所棟裏にすべての防災用品を集約した倉庫を設置

昨年の台風及び胆振東部地震を教訓に構内各所に点在していた防災用品を一か所に集約。災害発生時に迅速な対応ができるよう、設備点検をはじめ、飲料水や食料を備蓄。災害に強く一日も早い現状復旧ができる企業であり続けたいと思います。



停電に備え、発電機やコードリールを準備



## 7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無 *Compliance*

### 7-1. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価結果

法律・条令	遵守事項	遵守評価
廃棄物処理法	委託契約書の締結	◎ 全顧客契約締結及び原本5年間保管
	マニフェスト伝票の管理	◎ 原本5年間保管
	処分保管量の遵守	◎ 適正保管量、期間の遵守
	積替え保管量の遵守	◎ 適正保管量、期間の遵守
	運搬車の表示と許可証写、マニフェスト携帯	◎ 全許可車両遵守 車両2車新規追加
	収集運搬業内容の変更	◎ 2019.2 許可車両入替、積保No.9新設
	処分業内容の変更	◎ 2019.3 二軸式破碎機の導入
	処理施設内容の変更	◎ 2018.12 代表者、役員変更
	産業廃棄物処理施設実績	◎ 2019.6 北海道へ報告
	産業廃棄物処理実績	◎ 2019.6 北海道へ報告
	産業廃棄物管理票交付等状況	◎ 2019.6 北海道へ報告
	産業廃棄物収集運搬実績	◎ 2019.6 札幌市へ報告
大気汚染防止法	炉筒煙管ボイラ 煤塵、Sox、Nox 3項目の2回以上/年の測定	◎ 基準値内 ボイラ使用燃料をA重油に変更したため、Nox基準値内を維持
	水管ボイラ 煤塵、Sox、Nox 3項目の2回以上/年の測定	◎ 基準値内
フロン排出抑制法	事務所内業務用エアコンの 定期点検（4回/年）	◎ 2019.8 定期点検実施
海洋汚染海上災害防止法	事業実績報告	◎ 2018.10 北海道運輸局へ年次事業報告
家電リサイクル法	リサイクル券の発行	◎ 今期は家電廃棄なし
自動車リサイクル法	リサイクル券の発行	◎ 車両2台導入 リサイクル料金購入時清算
消防法	危険物施設、設備 全社構内	◎ 2019.9月 年次立入検査 特段、指摘事項なし
北海道公害防止条例	騒音・振動発生施設 コンプレッサー：2基 遠心分離機：2基	◎ 既存設備以外の届出発生なし

### 7-2. 違反・訴訟の有無

特にありません。

## 8.代表者による全体の評価と見直し

President evaluation

### 8-1. 代表者による全体評価と見直し

【環境方針】 変更有無 ⇒ なし

本方針は当社の企業理念を軸にし、事業内容とマッチングしているため、当面は本方針をベースとして運用を行う。但し、環境方針とは別途「SDGs（持続可能な開発目標）」の達成に向けた取り組みも同時並行する。

【環境活動計画】 変更有無 ⇒ あり

#### 5.次世代に繋がる環境活動の推進

「取引顧客に対するリサイクルデータ配布数」促進については配布数が飽和状態となっている。但し、15年以上続けてきた本活動は、顧客へのリサイクル意識向上に十分貢献したと思われる。よって、本環境活動の推進については、地域や社会に役立てていただける寄付活動に変更する。尚、寄付活動を継続するためには、ステークホルダーが当社の存在価値を認めて下さったことで売上に繋がり、その貢献度が利益となって寄付活動が継続できることを念頭に事業努力する。

【環境目標】 変更有無 ⇒ なし（要観察）

#### ■二酸化炭素排出量削減 化石燃料使用量

車両用化石燃料については、前年是正した数値を大きく下回ることが出来、CO<sub>2</sub>削減に貢献できた。よって、次年度は前年に是正した目標値を維持するが、より一層の削減に繋がるよう行動する。但し、「再生重油」の製造に使用するボイラの燃料【A重油】については、要観察と判断する。これは、Nox基準値を遵守するため、ボイラ燃料を廃油からA重油に移行し、かつ今期の製造量が当初設定した計画量を大きく超えたため、A重油使用量が上回った。2020年度目標値は計画量に対する設定値であるため製造量を見ながら要観察とするが、運転効率の見直しや再生エネルギーの活用等化石燃料に依存しない製造方法を長期的に検討していく必要がある。

#### ■省資源の促進 水の使用量 変更有無 ⇒ なし（要観察）

本目標値は、年間使用量を鑑みて設定を行ったはずだが、本年5月より、RPF製品の「天かす火災」防止を講じるため、製品ヤードに放水をしたことで大幅に水の使用量が増えた。次年度は、冷却専用の容器を導入し、冷却水を再使用して水量の削減に努める。

【単位：m<sup>3</sup>/年】

水道使用量	目標	実績
2018年度	1,010	1,784
2019年度	1,784	1,784
2020年度	1,766	1,766

目標遵守

## 8-2. 本プログラムの運用を通じて (代表者としての思い)

本プログラムを運用してから早3年目を迎え、特に「CO<sub>2</sub>削減」については深く考える機会が増え、加えて先日の「温暖化対策サミット」で16歳のグレタ・トゥーンベリ氏の演説の中で「現状の排出レベルならあと8年半経たないうちに許容できる二酸化炭素の排出量を超える」と指摘されており、改めてCO<sub>2</sub>対策は喫緊課題であることを痛感しました。

日本では、COP21において2030年までに2013年度比：26%のCO<sub>2</sub>を削減するという目標を掲げていますが、わが社ではまだまだ化石燃料や電力に依存しており、わが社のモットーである「より良い環境を次世代に継いでいくこと」は、まだまだ道半ばであります。

さらに、2015年に国連で採択された「SDGs (持続可能な開発目標)」の達成に向けた取り組みも企業であるわが社も実践しなければならないと考えます。

私どもは「世界を変えるための17の目標」のうち、「9」の取り組みを抽出し、CO<sub>2</sub>削減と同時並行で微力ながら世界を変えていけたらと思っています。

環境開発工業株式会社

代表取締役会長

長谷川 徹

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



わが社が取り組む

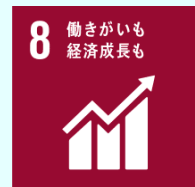
9

の課題



7 エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに

化石燃料使用の削減と  
再生エネルギーの導入検討



8 働きがいも  
経済成長も

社員満足度の向上と  
安定収益の維持継続



9 産業と技術革新の  
基盤をつくらう

多様なプラ素材に対応した  
再生方法の確立



11 住み続けられる  
まちづくりを

地域行政に対する  
安全・防災・環境への支援



12 つくる責任  
つかう責任

再資源化製品の  
安定供給と品質



13 気候変動に  
具体的な対策を

CO<sub>2</sub> 26%削減  
(当社2018年度比)



14 海の豊かさ  
を守ろう

油漏洩処理事業を通じて  
汚染範囲を最小限化



15 陸の豊かさ  
を守ろう

森林保全活動の支援を  
通じたCO<sub>2</sub>の削減



17 パートナシップで  
目標を達成しよう

森とアースへのeco21®ネットへ  
の参加と促進PR